

■海外情報

★IEA ブレークスルー・アジェンダレポート 2022（第3章 水素）のポイント

世界の平均気温の上昇を 2°C 未満に抑え、それを 1.5°C にする努力を追求するというパリ協定の目標を達成するため、世界的にクリーン経済への移行を、より迅速に、より低コストで、すべての人がより容易に利用できるようにすることが必要です。このため、COP26 で 5 分野（電力、水素、自動車交通、鉄鋼、農業）におけるクリーン技術のイノベーションと普及を協力して加速し、すべての人がアクセス可能で安価なものにするためのこの 10 年間の目標が承認されました。

この目標を達成するための打開策（ブレークスルー・アジェンダ）について、国際エネルギー機関、国際再生可能エネルギー機関等は、最初の年度報告書として 2022 年 9 月に「ブレークスルー・アジェンダレポート 2022」をまとめました。このレポートの中の自動車に関する部分の一つである、「第3章水素」（原文の p 52～81）のポイントを以下に整理しました。



水素ブレークスルー目標

“手頃な再生可能・低炭素水素が 2030 年までに世界的に利用可能になる”

- ◆水素は、代替クリーンエネルギーソリューションが限定される CO2 低減が困難な用途（主に、重工業、海上輸送、航空、季節電力貯蔵、大型トラック輸送の一部など）で、迅速なクリーンエネルギー移行をサポートする重要な役割を果たす。
- ◆2023 年から 2030 年にかけて、毎年水素生産能力を約 2 倍にする必要があり、導入の加速が必要。
- ◆これら目標の達成には、水素のバリューチェーン全体で資金調達を急激に拡大する必要あり。
- ◆当面の優先事項は、国や企業が協力して、水素の導入およびより大きな取引市場を創出すること（需要のコミットメントを増加）。

今後 1～2 年の間に国際協力を強化するための優先事項として、以下の 4 つを推奨。

- 1) 再生可能・低炭素水素の利用に対するコミットメントを国際的に協調、増加（需要をまとめ、生産に対する投資を動機付け）。各国は、早期導入を加速させるために得られた教訓を共有。
- 2) 低炭素・再生可能水素のための国際規格及び関連する認証制度の包括的なポートフォリオに合意し、排出量計算、安全性、漏れを含む運用上の問題を扱うべき。
※自動車交通については、大型トラック用水素充填ステーションの安全プロトコル、特に必要なセットバック距離（他の構造物からの最低離間距離）に関連する規格を具体的に推奨。
※本報告書では水素漏れによる温暖化リスクを指摘。水素は地球温暖化ガス（CO₂ の約 11±5 倍）であり、インフラからの水素漏れの計測、水素漏れ検知・修理（LDAR）システムのベストプラクティスを開発するための国際協力が必要。
- 3) 水素実証プロジェクトの数と地理的分布を飛躍的に増やし、これらが、海運、重工業、長期エネルギー貯蔵を含む、水素が高付加価値を持つ最終利用分野をそれぞれ適切にカバーするために協力するべき。
※自動車交通については、高速充填できる充填所含む大型トラックにおける水素の利用が具体的に記載。
- 4) 支援国および MDBs（国際開発金融機関）は、途上国における再生可能・低炭素水素の製造、流通、最終消費プロジェクトにおける大規模な民間投資を動機づける支援が必要。
※COP27 でも課題になった途上国支援が指摘されている。

「IEA ブレークスルー・アジェンダレポート 2022（第 3 章水素）」の全文は、（一財）環境優良車普及機構のホームページをご覧ください。

<https://www.levo.or.jp/lib/report/index.html>